

～とちぎの未来を考える～ 栃木県議会 県政ミーティング
開催結果報告書（概要）

令和5年12月20日

1 開催の目的

栃木県誕生150年を迎え「新しいとちぎ」づくりが目指される中、とちぎの未来を担う子どもたちに議会に対する関心を高め、理解を深めてもらうための主権者教育の一環となるよう実施するものである。

2 開催概要

(1) 大田原高校

ア 日時 令和5年10月25日（水曜日）14時25分から15時15分まで

イ 場所 県立大田原高校 体育館

ウ 出席者 大田原高校：生徒 1年生及び2年生約400名
県議会：佐藤良議長、関谷暢之副議長、池田忠議員、渡邊典喜議員、
山口恒夫議員、大谷弥生議員

エ 内容 自己紹介、県議会の役割・取組の紹介、質疑応答、テーマ別意見交換など
生徒の主な発言

○質疑応答

- ・県民が考えて出された疑問は、議題で取り扱われたりするののか。
- ・県では、人口減少による労働力不足に対し、どのような目標で、実際に何を行っているののか。

○テーマ別意見交換

（テーマ1とちぎの未来のためにできること、テーマ2議会や政治への関心を高めるためには）

- ・栃木県に国公立大学をつくることで、他県に出てしまう人や他県の人を呼び込むことで、将来的に県内に多くの優秀な人材を確保することができると思う。
- ・県民がSNSで発信する際に、「I Love Tochigi」などの共通のハッシュタグを使って投稿することで、栃木の魅力を伝えていけば、人々の関心も高まると考える。



(2) 壬生中学校

ア 日 時 令和5年11月9日（木曜日）13時35分から14時25分まで

イ 場 所 壬生町立壬生中学校 体育館

ウ 出席者 壬生中学校：生徒 2年生約200名
県議会：佐藤良議長、関谷暢之副議長、白石資隆議員、松井正一議員、
西村しんじ議員、あべひろみ議員

エ 内 容 自己紹介、県議会の役割・取組の紹介、質疑応答、テーマ別意見交換など
生徒の主な発言

○質疑応答

- ・なぜ県議会議員になろうと思ったのか。また、仕事をして楽しいと感じることは何か。
- ・町の人々の願いが多く届いたときは、何を優先して条例をつくるのか。

○テーマ別意見交換

- （テーマ1とちぎの未来のためにできること、テーマ2議会や政治への関心を高めるためには）
- ・少子化対策として、子育てしやすい県にしたい。子どもが増えれば、元気な県になると思う。
 - ・議会や政治に関係するマスコットキャラクターをつくって意見箱を持ってもらい、意見を集めるといいと思う。

3 県民への情報発信等

(1) 県議会広報

県議会公式X（旧ツイッター）、「県議会ハイライト」、「県議会とちぎ」での情報発信

(2) メディア

下野新聞、読売新聞、とちぎテレビ、ケーブルテレビ栃木

(3) 事例発表

12月1日全国都道府県議会議長会「多様な人材が輝く議会のための懇談会」において佐藤議長（懇談会副座長）が、県政ミーティングについて事例発表を行った。



4 アンケート結果

問1 議会の取組の説明について
説明は分かりやすかったですか。

回答項目	大田原高校	壬生中学校
分かりやすかった	40.15%	69.43%
やや分かりやすかった	31.66%	18.47%
普通	20.85%	7.64%
やや分かりにくかった	5.02%	2.55%
分かりにくかった	2.32%	1.91%

問3 テーマ別意見交換について
栃木県の将来や政治への参加について、興味・関心は高まりましたか。

回答項目	大田原高校	壬生中学校
高まった	28.96%	38.85%
やや高まった	44.79%	44.59%
変わらない	26.25%	16.56%

自由意見（抜粋）

大田原高校

- 県議会がどのような人により進められているのかよく知ることができた。
- これからを担う身として積極的に政治について調べてみようと思った。
- 議員と直に対話ができとてもよかった。
- 熱のある質疑応答で圧倒された。次回も大田原高校で開催してほしい。
- 積極的に投票に行こうと思えるようになった。

問2 質疑・応答について
県議会や議員への理解は深まりましたか。

回答項目	大田原高校	壬生中学校
深まった	29.73%	48.41%
やや深まった	41.70%	33.12%
普通	17.37%	14.01%
あまり深まらなかった	6.18%	2.55%
深まらなかった	5.02%	1.91%

問4 県議会及び県議会議員について
県議会及び県議会議員について、身近に感じることができるようになりましたか。

回答項目	大田原高校	壬生中学校
感じられるようになった	27.80%	38.22%
やや感じられるようになった	45.95%	48.41%
変わらない	16.22%	10.19%
あまり感じられなかった	6.95%	2.55%
感じられなかった	3.09%	0.64%

壬生中学校

- 県議会や政治に対する理解と関心が深まった。
- 選挙権を持つ年齢になったら積極的に投票をして政治に参加したい。
- 初めて近くで見て、議会と生活との身近さを感じることができた。
- どんな質問でも分かりやすく回答してくれて聞きやすかった。
- 社会貢献や地域探究学習などへの関心や熱意がさらなるものへと変わった。

5 参加議員の感想

(1) 大田原高校

- 池田議員 生徒達の県政に対する関心の高さに驚きました。具体的な提案もあり、若者たちの発想は議員活動に大いに参考になり、議会として取り上げたいような内容もありました。生徒たちの政治意識を高め、議員にとっても収穫の多いものでした。
- 山口議員 現場の高校生の生の声をお聴きし、若者が政治に無関心であるなどというのは、勘違いであると感じました。特に、報道等で、私たちの声が政治や議会に届くことを実感できたという感想に、もっとこういう機会を増やすべきと感じました。
- 渡邊議員 高校生と触れ合える貴重な機会でした。質問などからもどのように県議会議員が見られているかが伝わってきましたし、改めて議会の情報を直接かつ丁寧に発信していくことが大切だと認識しました。もう少し時間があるとよかったと感じました。
- 大谷議員 大田原高校の生徒さんから沢山の意見や提案をいただきましたので、私にとってもよい経験となりました。機会があれば、また、参加したいと思えますし、今後も継続して実施していくことを望みます。

(2) 壬生中学校

- 白石議員 新鮮で楽しい時間であり、中学生に分かりやすい回答を考えることが勉強になりました。また、中学生から議員に対して評価してもらおうと我々も参考になり、さらに生徒と真剣に向き合えると思えます。教育問題など生徒と直接関係する話題があると生徒も興味を抱きやすいと感じました。
- 松井議員 主権者教育を目的に、県議会改革の一環として初の取組でしたが、壬生中生徒の皆さんの真剣な参加態度に感心しました。また、中学生の質問に時間制限で的確に答弁するといった経験は、大変勉強になりました。貴重な機会を与えていただき感謝いたします。
- 西村議員 中学生の皆さんに対する県議会の役割・取組説明や質疑応答ならびにテーマ別意見交換の実施は議員として初めてで貴重な経験となりました。また、思った以上に政治への興味や関心を持っていることに対し希望を感じました。
- あべ議員 生徒の皆さんと顔を見合わせながら、直接意見交換ができたこと、県民の声や要望が反映されることを知ってもらうことで、政治や議会を少し身近に感じ、興味・関心を持ってもらう良いきっかけになったと思えます。

6 まとめ（要約）

「～とちぎの未来を考える～ 栃木県議会 県政ミーティング」は、県民により身近で開かれた県議会を目指す取組として、栃木県誕生 150 年を迎え「新しいとちぎ」づくりが目指される中、とちぎの未来を担う子どもたちに議会に対する関心を高め、理解を深めてもらうための主権者教育の一環となるよう本県議会として初めて実施することとしたものである。

出席議員については、各会派の希望議員が出席できるよう調整が行われ、県議会を代表して出席するということについて、認識と自覚を共有したところである。

このようにして開催した県政ミーティングについては、参加議員は事前準備を行うとともに、当日は生徒に分かりやすい表現で説明するなど、生徒の理解につながるよう努めたところである。また、開催校においては、学習内容や研究活動等を踏まえて当日に臨んでいただき、生徒からは、県議会や県議会議員に対する率直な疑問や質問が寄せられるとともに、とちぎの未来に向けた取組や、政治・議会への関心を高めるための取組について具体的な提案があるなど、本取組の目的とした主権者教育の一環につながったものとする。

さらに、参加議員においても、生徒への県議会への関心を高めることにつながったとの実感を得ることができたことに加え、生徒からの質問や意見によって新たな気づきにつながり、非常に意義があったところである。

こうしたことから、今回の県政ミーティングについては、概ね成功であったと総括できると考える。

課題としては、開催時間の都合から、発言できる生徒の人数や発言時間、自由な意見のやりとりに制限があったことがあげられる。また、今回、2校の協力により開催につながったが、今後同様に開催する場合は、開催校の選定方法や実施回数、参加議員の調整方法等についても検討する必要がある。

今回の県政ミーティングに参加した議員一同は、生徒との意見交換等を非常に有意義に感じているところであり、県民により身近で開かれた県議会を目指し、こうした取組を継続していくことが、本県議会にとって、そして県民にとっても有効であるとする。

今後の取組については、県議会としてしっかりと検討・協議していくことが重要である。